



平成 27 年 2 月 2 日

各 位

会 社 名 サイオステクノロジー株式会社  
代表者名 代表取締役社長 喜多 伸夫  
(コード番号 3744 東証マザーズ)  
問合せ先 執行役員 小林 徳太郎  
電 話 0 3 - 6 4 0 1 - 5 1 1 1

## 新製品の企業化（新製品販売）に関するお知らせ

当社は、平成 27 年 2 月 2 日開催の取締役会において、機械学習技術<sup>(\*)</sup>を搭載した IT オペレーション分析<sup>(\*\*)</sup>ソフトウェア「SIOS iQ」の企業化を行うことについて決定いたしましたので、お知らせいたします。

### 記

#### 1. 企業化に至るまでの経緯

近年、仮想及びクラウド環境へのシステム移行が急速に広がっています。その結果、IT 部門の管理負担は増加する一方であり、負担軽減のソリューションが望まれています。これまでも管理負担を軽減する製品はありましたが、潜在的問題を機械学習技術を用いて分析・把握し、解決策を提供する製品は存在しませんでした。

当社グループは、これら IT 管理者がシステム運用時に抱える複雑な問題を解決すべく、グループの技術力を結集し、機械学習技術を搭載した IT オペレーション分析ソフトウェア「SIOS iQ」を開発し、販売することを決定いたしました。

#### 2. 新製品の概要

IT オペレーション分析ソフトウェアは、IT システム運用で発生するビッグデータを分析し、システムの運用に関わる意思決定を支援するソリューションです。

IT オペレーション分析ソフトウェア「SIOS iQ」は、機械学習技術を用いて仮想及びクラウド環境での重要なアプリケーションの運用における複雑な問題を解決します。アプリケーション、コンピュータ、ストレージ、ネットワーク間の稼働パターンをトラッキングし、正常稼働時のパラメーターを学習します。その上で、稼働状況の問題を検出し、仮想及びクラウド環境でのアプリケーションのパフォーマンス、効率性、信頼性を改善するための重要情報を提供します。「SIOS iQ」は、重要なアプリケーションを保護するソリューションとして IT 管理者の課題を解決します。

3. 新製品の発売開始時期

平成 27 年第 3 四半期中にグローバル市場において販売を開始する予定です。

4. 新製品の売上高への影響

当期（平成 27 年 12 月期）の売上高への影響は軽微であり、当期業績予想へ織り込み済みです。

5. 新製品の企業化のために特別に支出する額

本件企業化のために特別に支出する費用は、当期（平成 27 年 12 月期）は研究開発費等約 330 百万円を見込んでいますが、当期連結業績予想へ織り込み済みです。

尚、前期（平成 26 年 12 月期）におきましては、本件企業化のために研究開発費 207 百万円を投じています。

6. 今後の見通し

本件企業化に係る業績への影響は、当期業績予想に織り込み済みです。

（参考）当期連結業績予想（平成 26 年 1 月 31 日公表分）及び前期連結業績実績

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
当期連結業績予想 （平成 27 年 12 月期）	8,000 百万円	△300 百万円	△300 百万円	△330 百万円
前期連結実績 （平成 26 年 12 月期）	7,367 百万円	65 百万円	81 百万円	39 百万円

(\*1) 機械学習技術

人間が行っている学習能力と同様の機能をコンピュータで実現しようとする技術、さまざまなデータから有益な情報を発掘するもの。

(\*2) IT オペレーション分析

IT 運用で発生するビッグデータを分析し、実用的で分かりやすい情報へと変換するもの。

以 上